



ヨハネ14章1-14（★6）

- 14:1 安息日のことだった。イエスは食事のためにファリサイ派のある議員の家にお入りになったが、人々はイエスの様子をうかがっていた。
- 14:2 そのとき、イエスの前に水腫を患っている人がいた。
- 14:3 そこで、イエスは律法の専門家たちやファリサイ派の人々に言われた。「安息日に病気を治すことは律法で許されているか、いないか。」
- 14:4 彼らは黙っていた。すると、イエスは病人の手を取り、病気をいやしてお帰しになった。
- 14:5 そして、言われた。「あなたたちの中に、自分の息子が牛が井戸に落ちたら、安息日だからといって、すぐに引き上げてやらない者がいるだろうか。」
- ★14:6 彼らは、これに対して答えることができなかった。
- 14:7 イエスは、招待を受けた客が上席を選ぶ様子に気づいて、彼らにたとえを話された。
- 14:8 「婚宴に招待されたら、上席に着いてはならない。あなたよりも身分の高い人が招かれており、
- 14:9 あなたやその人を招いた人が来て、『この方に席を譲ってください』と言うかもしれない。そのとき、あなたは恥をかって末席に着くことになる。
- 14:10 招待を受けたら、むしろ末席に行って座りなさい。そうすると、あなたを招いた人が来て、『さあ、もっと上席に進んでください』と言うだろう。そのときは、同席の人みんなの前で面目を施すことになる。
- 14:11 だれでも高ぶる者は低くされ、へりくだる者は高められる。」
- 14:12 また、イエスは招いてくれた人にも言われた。「昼食や夕食の会を催すときには、友人も、兄弟も、親類も、近所の金持ちも呼んではならない。その人たちも、あなたを招いてお返しをするかも知れないからである。
- 14:13 宴会を催すときには、むしろ、貧しい人、体の不自由な人、足の不自由な人、目の見えない人を招きなさい。
- 14:14 そうすれば、その人たちはお返しができないから、あなたは幸いだ。正しい者たちが復活するとき、あなたは報われる。」



「わたしが道であると言われる主」（豊島守 ディコンリー福音教団堺育麦教会 牧師）

「分け登る麓の道は多けれど 同じ高嶺の月を見るかな」。一休禅師の作と伝えられる道歌です。宗教の入り口はいろいろ違っていても、最終的に到達するところは同じであるということを説いています。最近登っている、大阪の金剛山も、登山道は百通り以上あると言われます。「一つの真理に向かって仏教も神道もキリスト教もみんな同じところを求めているのです」と言われれば、受け入れやすいのが日本人ではないでしょうか。

しかし今日の聖書《わたしを通らなければ、だれも父のもとに行くことができない》とのキリストの言葉は、そうではないことを明言しておられます。

クリスチャンになる時の一つのつまづきでした。キリスト教会はなんと非寛容な宗教かと思いましたが、でも真理に関しては譲れない事があるという恵みを、最近特に強く覚えます。

その他の事は、周りの人にへりくだって合わせます。しかし、この事に関しては、みことばに立つと告白するのがキリスト者ではないでしょうか。真理は一つなのですから。

- 祈り この救いの道をへりくだって伝えさせてください。
- 日本福音ルーテル甲府教会のために祈りましょう。

<http://park19.wakwak.com/~kofu/>



ヘブライ人への手紙4章14～5章10（★15）

4:14 さて、わたしたちには、もろもろの天を通過された偉大な大祭司、神の子イエスが与えられているのですから、わたしたちの公に言い表している信仰をしっかりと保とうではありませんか。

★4:15 この大祭司は、わたしたちの弱さに同情できない方ではなく、罪を犯されなかったが、あらゆる点において、わたしたちと同様に試練に遭われたのです。

4:16 だから、憐れみを受け、恵みにあずかって、時宜にかなった助けをいただくために、大胆に恵みの座に近づこうではありませんか。

[5]

5:1 大祭司はすべて人間の中から選ばれ、罪のための供え物やいけにえを献げるよう、人々のために神に仕える職に任命されています。

5:2 大祭司は、自分自身も弱さを身にまとっているのです。無知な人、迷っている人を思いやることができるのです。

5:3 また、その弱さのゆえに、民のためだけでなく、自分自身のためにも、罪の贖いのために供え物を献げねばなりません。

5:4 また、この光栄ある任務を、だれも自分で得るのではなく、アロンもそうであったように、神から召されて受けるのです。

5:5 同じようにキリストも、大祭司となる栄誉を御自分で得たのではなく、／「あなたはわたしの子、／わたしは今日、あなたを産んだ」と言われた方が、それをお与えになったのです。

5:6 また、神は他の個所で、／「あなたこそ永遠に、／メルキゼデクと同じような祭司である」と言われています。

5:7 キリストは、肉において生きておられたとき、激しい叫び声をあげ、涙を流しながら、御自分を死から救う力のある方に、祈りと願いとをささげ、その畏れ敬う態度のゆえに聞き入れられました。

5:8 キリストは御子であるにもかかわらず、多くの苦しみによって従順を学ばれました。

5:9 そして、完全な者となられたので、御自分に従順であるすべての人々に対して、永遠の救いの源となり、

5:10 神からメルキゼデクと同じような大祭司と呼ばれたのです。



「私の痛みをわかってくださる主」

（豊島守 ディコンリー福音教団堺育妻教会牧師）

病気の方のお見舞いに元気な人が行っても何の慰めにも励ましにもならない、と言われます。「私の苦しみは、この元気な人にはわからない」と心を閉ざすことがあるからです。

旧約聖書の時代、大祭司を通してしか、人々は神様の前に出る事が出来ませんでした。その大祭司が、私の事を少しも理解してくれない、私の試練とは程遠い所を歩んでいる人だったらどうでしょう。生まれつき祭司階級で育った人には、下々の苦しみはわからないという事もありそうです。しかし、真の大祭司である主イエスは、私たちの弱さに同情して下さるお方です。

イエス様は罪は犯されませんでした。私たち以上の試練を体験されました。飢える事も、人に裏切られる事も体験されました。賞賛を浴びて傲慢になりそうな誘惑にも遭われました。侮辱の中で十字架の死を引き受けられました。まさに究極の体験者です。この方の前に出る者は「この方は私の苦しみをわかってくれない」とは言えません。苦しみを理解し、私の弱さに同情して下さるのですから。この方の前には安心して出て行けるのではないのでしょうか。

- 祈り 私の弱さにさえ同情して下さる主に感謝いたします。
- 日本福音ルーテル飯田教会のために祈りましょう。

<http://www.jelc-higashi.org/introduction/church/iida.html>



ヘブライ人への手紙5章11～6章12（★6章12）

5:11 このことについては、話すことがたくさんあるのですが、あなたがたの耳が鈍くなっているので、容易に説明できません。

5:12 実際、あなたがたは今ではもう教師となっているはずなのに、再びだれかに神の言葉の初歩を教えてもらわねばならず、また、固い食物の代わりに、乳を必要とする始末だからです。

5:13 乳を飲んでいる者はだれでも、幼子ですから、義の言葉を理解できません。

5:14 固い食物は、善悪を見分ける感覚を経験によって訓練された、一人前の大人のためのものです。

[6]

6:1-2 だからわたしたちは、死んだ行いの悔い改め、神への信仰、種々の洗礼についての教え、手を置く儀式、死者の復活、永遠の審判などの基本的な教えを学び直すようなことはせず、キリストの教えの初歩を離れて、成熟を目指して進みましょう。

6:3 神がお許しになるなら、そうすることにしましょう。

6:4 一度光に照らされ、天からの賜物を味わい、聖霊にあずかるようになり、

6:5 神のすばらしい言葉と来るべき世の力とを体験しながら、

6:6 その後に墮落した者の場合には、再び悔い改めに立ち帰らせることはできません。神の子を自分の手で改めて十字架につけ、侮辱する者だからです。

6:7 土地は、度々その上に降る雨を吸い込んで、耕す人々に役立つ農作物をもたらすなら、神の祝福を受けます。

6:8 しかし、茨やあざみを生えさせると、役に立たなくなり、やがて呪われ、ついには焼かれてしまいます。

6:9 しかし、愛する人たち、こんなふうには話してはいても、わたしたちはあなたがたについて、もっと良いこと、救いにかかわることがあると確信しています。

6:10 神は不義な方ではないので、あなたがたの働きや、あなたがたが聖なる者たちに以前も今も仕えることによって、神の名のために示したあの愛をお忘れになるようなことはありません。

6:11 わたしたちは、あなたがたのおのおのが最後まで希望を持ち続けるために、同じ熱心さを示してもらいたいと思います。

★6:12 あなたがたが怠け者とならず、信仰と忍耐とによって、約束されたものを受け継ぐ人たちを見倣う者となってほしいのです。



「成熟したキリスト者を目指して」豊島守（ディコンリー福音教団堺育麦教会牧師）

剣道では古くから三年早く剣道を始めるより、三年かかっても正しい師を探し求めよと言われます。正しい師につくという事は出発点です。正しい師につかない剣道は自分勝手に気ままな方向に行ってしまうと言われます。まずは正しい師を真似る事から修行は始まるのです。

聖書は、私たちの信仰生活も約束されたものを受け継ぐ人たちを見倣う者となってほしいと語っています。自分勝手な気ままなもの、怠け者とならないためです。

具体的な信仰生活の歩みを信仰の先輩たちから学びましょう。その中でやがて私たちは一人前のクリスチャンとして育っていくのです。その時大切な事は、正しい師につく事です。正しい師とはイエス様の事です。聖書を通して私たちはイエス様の事を知り、学び、その行いにまねていく事ができます。失敗しても大丈夫です。最初からうまく行くはずありません。キリストに見倣うには、信仰と忍耐によって、とも書かれています。とにかくまねる。見倣う事は信仰生活の第一歩目です。それによってたくさんの恵みを受けることとなります。

●祈り まずは見倣う事から始めさせてください。

●日本福音ルーテル松本教会のために祈りましょう。

http://www7b.biglobe.ne.jp/~lutheran_m-n/index.html



使徒言行録 2章36～47

2:36 だから、イスラエルの全家は、はっきり知らなくてはなりません。あなたがたが十字架につけて殺したイエスを、神は主とし、またメシアとなさったのです。」

2:37 人々はこれを聞いて大いに心を打たれ、ペトロとほかの使徒たちに、「兄弟たち、わたしたちはどうしたらよいのですか」と言った。

2:38 すると、ペトロは彼らに言った。「悔い改めなさい。めいめい、イエス・キリストの名によって洗礼を受け、罪を赦していただきなさい。そうすれば、賜物として聖霊を受けます。」

2:39 この約束は、あなたがたにも、あなたがたの子供にも、遠くにいるすべての人にも、つまり、わたしたちの神である主が招いてくださる者ならだれにでも、与えられているものなのです。」

2:40 ペトロは、このほかにもいろいろ話をして、力強く証しをし、「邪悪なこの時代から救われなさい」と勧めていた。

2:41 ペトロの言葉を受け入れた人々は洗礼を受け、その日に三千人ほどが仲間に加わった。

2:42 彼らは、使徒の教え、相互の交わり、パンを裂くこと、祈ることに熱心であった。

2:43 すべての人に恐れが生じた。使徒たちによって多くの不思議な業と行われていたのである。

2:44 信者たちは皆一つになって、すべての物を共有にし、

2:45 財産や持ち物を売り、おのおのの必要に応じて、皆がそれを分け合った。

2:46 そして、毎日ひたすら心一つにして神殿に参り、家ごとに集まってパンを裂き、喜びと真心をもって一緒に食事をし、

2:47 神を賛美していたので、民衆全体から好意を寄せられた。こうして、主は救われる人々を日々仲間に加え一つにされたのである。

ペトロの手紙一 1章17～21

1:17 また、あなたがたは、人それぞれの行いに応じて公平に裁かれる方を、「父」と呼びかけているのですから、この地上に仮住まいする間、その方を畏れて生活すべきです。

1:18 知つてのとおり、あなたがたが先祖伝来のむなしい生活から贖われたのは、金や銀のような朽ち果てるものにはならず、

1:19 きずや汚れのない小羊のようなキリストの尊い血によるのです。

1:20 キリストは、天地創造の前からあらかじめ知られていましたが、この終わりの時代に、あなたがたのために現れてくださいました。

1:21 あなたがたは、キリストを死者の中から復活させて栄光をお与えになった神を、キリストによって信じています。従って、あなたがたの信仰と希望とは神にかかっているのです。

ヨハネによる福音書 20章24～29

20:24 十二人の一人でディディモと呼ばれるトマスは、イエスが来られたとき、彼らと一緒にいなかった。

20:25 そこで、ほかの弟子たちが、「わたしたちは主を見た」と言うと、トマスは言った。「あの方の手に釘の跡を見、この指を釘跡に入れてみなければ、また、この手をそのわき腹に入れてみなければ、わたしは決して信じない。」

20:26 さて八日の後、弟子たちはまた家の中におり、トマスも一緒にいた。戸にはみな鍵がかけてあったのに、イエスが来て真ん中に立ち、「あなたがたに平和があるように」と言われた。

20:27 それから、トマスに言われた。「あなたの指をここに当てて、わたしの手を見なさい。また、あなたの手を伸ばし、わたしのわき腹に入れなさい。信じない者ではなく、信じる者になりなさい。」

20:28 トマスは答えて、「わたしの主、わたしの神よ」と言った。

20:29 イエスはトマスに言われた。「わたしを見たから信じたのか。見ないのに信じる人は、幸いである。」



「見ずに信じる幸い」豊島守（ディコンリー福音教団堺育麦教会牧師）

私の愛唱歌 讃美歌二四三番に、《うたがいまどうトマスにも・・・》と言う歌詞があります。この曲の二番には、《三たびわが主を いなみたる よわきペテロを・・・》ともあります。私はペテロのような者だという事をよく思いますが、うたがいまどうトマスにも親近感があります。エンジニアであった私は、科学万能主義、この世は計算でなんでもできると思っていましたから、自分で見ていない事は信じられないというトマスはまさに私の姿と思いました。

復活のイエス様を見たとき弟子たちが興奮して話し合っていた時の事です。イエス様の十字架の死に、力落としていた弟子たち。そこにイエス様は来てくださいました。彼らは復活の主に出会い、大きな励ましを受け、喜びます。ところが、どうしたわけかトマスはその場にいなかった。弟子たちの喜びとトマスの心には温度差がありました。私たちもそんな経験をしないでしょうか。みんなが体験している事を自分はしていない。そんな疎外感もあり、トマスは私は見なければ信じないと言ったと思うのです。トマスの心の中は寂しかったと思います。

仲間たちが信じている復活の主を信じられない自分がいました。自分の信じている体験、知識、それが復活のイエス様を認めないのです。トマスには二つの道がありました。仲間たちから離れてイエス様を信じないで歩む人生。そして、うたがいまどいながらも、弟子たちの中にとどまる道です。弟子たちは、そっとトマスと共に、一週間過ごしてくれました。トマスもとどまりました。そこに、イエス様は現れてくださったのです。まるでトマスだけのために来られたようです。

私たちも、信仰を持っていたと思うのに、わからなくなったり、教会でいても疎外感を覚えたりする時がないでしょうか。それでもとどまり続ける中で、説教がまるで自分のためだけに語られているような体験をする時があります。

トマスを愛し、トマスに優しく語られたイエス様は私たちにも見ずに信じる者となりなさいと声をかけてくださいます。その喜びは何にも代えられない喜びです。

- 祈り うたがいまどう私にも来てくださる主に感謝します。
- 日本福音ルーテル長野教会のために祈りましょう。

http://www7b.biglobe.ne.jp/~lutheran_m-n/index.html



ヘブライ人への手紙 6章13～20（★19）

6:13 神は、アブラハムに約束をする際に、御自身より偉大な者にかけて誓えなかったの
で、御自身にかけて誓い、

6:14 「わたしは必ずあなたを祝福し、あなたの子孫を大いに増やす」と言われました。

6:15 こうして、アブラハムは根気よく待って、約束のものを得たのです。

6:16 そもそも人間は、自分より偉大な者にかけて誓うのであって、その誓いはあらゆる反
対論にけりをつける保証となります。

6:17 神は約束されたものを受け継ぐ人々に、御自分の計画が変わらないものであること
を、いっそうはつきり示したいと考え、それを誓いによって保証なされたのです。

6:18 それは、目指す希望を持ち続けようとして世を逃れて来たわたしたちが、二つの不変
の事柄によって力強く励まされるためです。この事柄に関して、神が偽ることはありませ
ん。

★6:19 わたしたちが持っているこの希望は、魂にとって頼りになる、安定した錨のよう
なものであり、また、至聖所の垂れ幕の内側に入って行くものなのです。

6:20 イエスは、わたしたちのために先駆者としてそこへ入って行き、永遠にメルキゼデク
と同じような大祭司となられたのです。



「希望の錨が投げ込まれています」豊島守（ディコンリー福音教団堺育麦教会牧

師）

私たちの希望は、イエス様によって与えられる救いの約束です。しかし、私たちはこの世の荒
波にもまれて希望が見えなくなってしまうような体験をします。

小さな船で海の地形を測量する仕事をしていたことがあります。その時、突然海が荒れてくる。
ガリラヤ湖ではそんな嵐が良くありますが、私もそんな体験をしました。

小さな船は横波を受けると転覆してしまいます。また風に流されてしまいます。そんな時、錨を
海の底に投げ入れて嵐の終わるのを待ちました。その錨によって私たちは流されません。

聖書にも希望が安定した錨となり、魂にとって頼りになると書かれています。しかしご存知のよ
うに、錨があっても舟は移動します。海が深ければ深いほどその移動の範囲は大きいです。私た
ちは誘惑や試練によって、一か所で固定されるような事はなく、あっちこっちへと流されます。
でも錨があるならば、その錨を中心として回っているだけです。どんなに翻弄されているよう
に見えても、実は安心です。キリストが安定した錨なのです。

- 祈り 私の人生にはキリストという錨があります。
- 日本ルーテル教団川崎教会のために祈りましょう。

http://www.geocities.jp/kawasaki_lutheran/

<前のページ

次のページ>



ヘブル人への手紙7章1～10 (★3)

7:1 このメルキゼデクはサレムの王であり、いと高き神の祭司でしたが、王たちを滅ぼして戻って来たアブラハムを出迎え、そして祝福しました。

7:2 アブラハムは、メルキゼデクにすべてのものの十分の一を分け与えました。メルキゼデクという名の意味は、まず「義の王」、次に「サレムの王」、つまり「平和の王」です。

★7:3 彼には父もなく、母もなく、系図もなく、また、生涯の初めもなく、命の終わりもなく、神の子に似た者であって、永遠に祭司です。

7:4 この人がどんなに偉大であったかを考えてみなさい。族長であるアブラハムさえ、最上の戦利品の中から十分の一を献げたのです。

7:5 ところで、レビの子らの中で祭司の職を受ける者は、同じアブラハムの子孫であるにもかかわらず、彼らの兄弟である民から十分の一を取るように、律法によって命じられています。

7:6 それなのに、レビ族の血統以外の者が、アブラハムから十分の一を受け取って、約束を受けている者を祝福したのです。

7:7 さて、下の者が上の者から祝福を受けるのは、当然なことです。

7:8 更に、一方では、死ぬはずの人間が十分の一を受けているのですが、他方では、生きている者と証しされている者が、それを受けているのです。

7:9 そこで、言ってみれば、十分の一を受けるはずのレビですら、アブラハムを通して十分の一を納めたこととなります。

7:10 なぜなら、メルキゼデクがアブラハムを出迎えたとき、レビはまだこの父の腰の中にいたからです。



「キリストのひながた メルキゼデク」豊島守 (ディコンリー福音教団堺育麦教会牧師)

初めてメルキゼデクの話聞いた時。びっくりしたことを思い出します。祭司はアロンの系図であり、レビの部族が務めていました。イエス様はレビ族でないのにどうして大祭司と呼ばれる事が出来るのだろうと理屈っぽく考えていたのです。

ところが、アブラハムの時代に《彼には父もなく、母もなく、系図もなく、また、生涯の初めもなく、命の終わりもなく、神の子に似た者であって、永遠に祭司です》と言われる人がいました。このメルキゼデクこそ、キリストのひながたです。

メルキゼデクは祭司としてアブラハムを祝福します。その祝福が与えられた中には、のちのレビ族も含まれています。つまりメルキゼデクは、後に律法によって祭司として立てられるレビ族をも祝福する、より上位の祭司ということになります。人間になる祭司よりも、もっと力のある永遠の祭司ともいえます。

このメルキゼデクこそ、私たちの救い主、イエス・キリストを指し示しているのです。

- 祈り とこしえの祭司キリストに祈れることを感謝します。
- 近畿福音ルーテル河芸教会のために祈りましょう。

<http://www.kawage-ik.net/>



ヘブライ人への手紙7章11～19 (★19)

7:11 ところで、もし、レビの系統の祭司制度によって、人が完全な状態に達することができたとすれば、——というのは、民はその祭司制度に基づいて律法を与えられているのですから——いったいどうして、アロンと同じような祭司ではなく、メルキゼデクと同じような別の祭司が立てられる必要があるでしょう。

7:12 祭司制度に変更があれば、律法にも必ず変更があるはずです。

7:13 このように言われている方は、だれも祭壇の奉仕に携わったことのない他の部族に属しておられます。

7:14 というのは、わたしたちの主がユダ族出身であることは明らかですが、この部族についてはモーセは、祭司に関することを何一つ述べていないからです。

7:15 このことは、メルキゼデクと同じような別の祭司が立てられたことによって、ますます明らかです。

7:16 この祭司は、肉の掟の律法によらず、朽ちることのない命の力によって立てられたのです。

7:17 なぜなら、／「あなたこそ永遠に、／メルキゼデクと同じような祭司である」と証しされているからです。

7:18 その結果、一方では、以前の掟が、その弱く無益なために廃止されました。——

★7:19 律法が何一つ完全なものにできなかったからです——しかし、他方では、もっと優れた希望がもたらされました。わたしたちは、この希望によって神に近づくのです。



「律法の限界」 豊島守 ディコンリー福音教団堺育麦教会牧師

人が律法を守ることによって救われるという事は、旧約聖書の記事を読んでも、また私たちの現実を見ても不可能であることは明らかです。罪の中で苦しむ私たちに対して《律法は、わたしたちをキリストのもとへ導く養育係となったのです》(ガラテヤ三章二四)。私たちには律法ではない救いの道が用意されました。それがキリストを信じる信仰による、神様の一方的な恵みによる救いです。

私は、人間の決めた作法、変わる事のないやり方、古臭いと言われるようなものが好きです。保守的な部分が多い者です。この聖書の時代に生まれていたら、レビの系統の祭司制度に心惹かれる、固執する者であるかもしれません。しかし、「そこに本当の希望はないよ。もっとすぐれた希望があるよ」と、キリストが来てくださっているのです。わたしたちには、このお方に希望をおいて神様に近づくことができる恵みが与えられています。《古いものは過ぎ去り、新しいものが生じた》(第二コリント五章一七) のです。

- 祈り 律法よりも優れた救いの希望に感謝します。
- 西日本福音ルーテル西神教会のために祈りましょう。

<http://seishin.sekl.fi/>



ヘブライ人への手紙7章20～28（★24）

7:20 また、これは誓いによらないで行われたものではありません。レビの系統の祭司たちは、誓いによらないで祭司になっているのですが、

7:21 この方は、誓いによって祭司となられたのです。神はこの方に対してこう言われました。「主はこう誓われ、／その御心を変えられることはない。『あなたこそ、永遠に祭司である。』」

7:22 このようにして、イエスはいつそう優れた契約の保証となられたのです。

7:23 また、レビの系統の祭司たちの場合には、死というものがあるので、務めをいつまでも続けることができず、多くの人たちが祭司に任命されました。

7:24 しかし、イエスは永遠に生きているので、変わる事のない祭司職を持っておられるのです。

7:25 それでまた、この方は常に生きていて、人々のために執り成しておられるので、御自分を通して神に近づく人たちを、完全に救うことができになります。

7:26 このように聖であり、罪なく、汚れなく、罪人から離され、もろもろの天よりも高くされている大祭司こそ、わたしたちにとって必要な方なのです。

7:27 この方は、ほかの大祭司たちのように、まず自分の罪のため、次に民の罪のために毎日いけにえを献げる必要はありません。というのは、このいけにえはただ一度、御自身を献げることによって、成し遂げられたからです。

7:28 律法は弱さを持った人間を大祭司に任命しますが、律法の後になされた誓いの御言葉は、永遠に完全な者とされておられる御子を大祭司としたのです。



「変わる事がないという平安」豊島守（ディコンリー福音教団堺育麦教会牧師）

役所に行って、困るというか腹が立つのは、せつかく何回も足を運んで、良い返事をもらって安心していても、何年かたってもう一度行ったら、「すみません。その当時の担当者はもう変わっておりまして、わかりません」とか、ひどい時には約束がほごにされる事もある事です。

これは信仰の世界でもある事かもしれません。尊敬していた先生が変わられていた。私の事をあんなに祈り、導いてくださっていた方がもうおられない。

この場合、大体において引継ぎは不正確です。役所でも都合の悪い事は消されています。人間の祭司も同じことが言えるでしょう。

死というものがある人間には限界があります。その事をいやと言うほど、様々な事で体験している私たちは、《しかし、イエスは永遠に生きているので、変わる事のない祭司職を持っておられるのです》という言葉に言い知れない平安をおぼえます。あなたの事はいつも完全に覚えられており、変わらぬ永遠の救いと執り成しがあるのです。

- 祈り いつまでも変わらない祭司に感謝します。
- ディコンリー御影教会のために祈りましょう。

http://www.kyokai.com/contents/detail_3987/



ヘブライ人への手紙8章1～6（★1）

8:1 今述べていることの要点は、わたしたちにはこのような大祭司が与えられていて、天におられる大いなる方の玉座の右の座に着き、

8:2 人間ではなく主がお建てになった聖所また真の幕屋で、仕えておられるということです。

8:3 すべて大祭司は、供え物といけにえとを献げるために、任命されています。それで、この方も、何か献げる物を持っておられなければなりません。

8:4 もし、地上におられるのだとすれば、律法に従って供え物を献げる祭司たちが現にいる以上、この方は決して祭司ではありえなかったでしょう。

8:5 この祭司たちは、天にあるものの写しであり影であるものに仕えており、そのことは、モーセが幕屋を建てようとしたときに、お告げを受けたとおりです。神は、「見よ、山で示された型どおりに、すべてのものを作れ」と言われたのです。

8:6 しかし、今、わたしたちの大祭司は、それよりはるかに優れた務めを得ておられます。更にまさった約束に基づいて制定された、更にまさった契約の仲介者になられたからです。



「私を弁護してくださる大祭司」豊島守（ディコンリー福音教団堺育麦教会牧師）

私たちは、神様の聖い律法に照らされた時、誰一人として「私は正しい」と誇れるものはいません。《人は皆、罪を犯して神の栄光を受けられなくなっています》（ローマ三章二三）。そして《罪の支払う報酬は死です》（ローマ六章二三）。神様は聖なる方ですから、その聖さのゆえに罪ある私たちを見過ごしにはできません。日々私たちは神様のお怒りの中に歩む者です。

「もうこんな奴は滅ぼしてしまおう」と思われて当然です。しかし、その天の父なる神様の右には私たちの大祭司キリストがいて執り成しをしてくださっています。それは口先だけの執り成しではありません。罪を犯されなかったイエス様が、私たちの受ける刑罰のために、十字架にかかり、命をささげられたという、身代わりの死による執り成しです。「私の死ゆえにこの罪人を赦してください」との執り成しです。その事があるゆえに私たちは自分の罪と弱さを認めながらも、安心して神の前に立てるのです。

こんな素晴らしい大祭司が、私たちの事をいつも祈ってくださっています。

- 祈り 執り成しを感謝し、人を執り成す者とさせてください。
- 日本福音ルーテル諏訪教会のために祈りましょう。

<http://park19.wakwak.com/~suwa/index.html>



ヘブライ人への手紙 8章 7～13 (★13)

8:7 もし、あの最初の契約が欠けたところのないものであったなら、第二の契約の余地はなかったでしょう。

8:8 事実、神はイスラエルの人々を非難して次のように言われています。「『見よ、わたしがイスラエルの家、またユダの家と、／新しい契約を結ぶ時が来る』と、／主は言われる。

8:9 『それは、わたしが彼らの先祖の手を取って、／エジプトの地から導き出した日に、／彼らと結んだ契約のようなものではない。彼らはわたしの契約に忠実でなかったので、／わたしも彼らを顧みなかった』と、／主は言われる。

8:10 『それらの日の後、わたしが／イスラエルの家と結ぶ契約はこれである』と、／主は言われる。『すなわち、わたしの律法を彼らの思いに置き、／彼らの心にそれを書きつけよう。わたしは彼らの神となり、／彼らはわたしの民となる。

8:11 彼らはそれぞれ自分の同胞に、／それぞれ自分の兄弟に、／「主を知れ」と言って教える必要はなくなる。小さな者から大きな者に至るまで／彼らはすべて、わたしを知るようになり、

8:12 わたしは、彼らの不義を赦し、／もはや彼らの罪を思い出しはしないからである。』」

8:13 神は「新しいもの」と言われることによって、最初の契約は古びてしまったと宣言されたのです。年を経て古びたものは、間もなく消えうせます。



「新しい契約」豊島守（ディコンリー教団堺育麦教会牧師）

最初の契約とは旧約聖書の律法の中にある契約です。出エジプトの後、荒野で与えられた契約です。神様の与えられた律法を守る事によって神の祝福を受けようとするものです。律法を守って私たちが神様の前に義とされようとするものです。

ところがイスラエルの民はその事に失敗しました。それは今の私たちでも同じです。人は行いによって救われる事はないからです。そしてすでに預言されていたキリストの血による契約が今や有効になりました。私たちの罪のために流された汚れなきイエス様の血。ただ一度流された血によって、永遠に、私たちのそのままで神の前に出て、義とされる恵みに導かれているのです。

新しいものが現れた時、古いものは間もなく消え失せます。キリストの十字架の死の時、古い契約であった神殿の幕は、真っ二つに裂けました。新しい契約へと変えられたのです。人間による不完全な大祭司を通してではなく、神の子キリストという大祭司によって私たちは神様の前に出ることが出来るのです。

- 祈り 行いにより自分を義とすることから碎かれますように。
- 日本福音ルーテル沼津教会のために祈りましょう。

<http://www.jelc.or.jp/churches/churches2.html#tokai>